



# もしもの時の医療 信頼する人との人生会議

公立松任石川中央病院(白山市)は、人生の最終段階の医療・ケアについて、患者が家族ら信頼できる人と事前に話し合う「人生会議」の取り組みを勧めています。何の準備もない状態で、治療法に関する難しい選択を迫られると、自分も家族も後悔する事態になりかねないためです。いつか訪れる親しい人との別れについて考えておくことは、とても大切なことです。



人生会議をテーマに意見交換が行われたシンポジウム=2022年11月、白山市の金城大笠間キャンパス

「人生会議」の目的について、主任看護師長で看護部倫理委員長の村井あずささんは「どう最期を迎えるかではなく、どう生きるか、という視点で捉えています」と説明します。



人生会議の目的などを紹介する村井主任看護師長

治療が難しい段階に入りそうな人が人生の最後に大切にしたいものは何か。それは人それぞれ

れです。最後まで治療を目指して受けられる治療を全て試みるケースもあれば、家族との時間を大切にしようとする副作用の大きな治療を中断して自宅で過ごす

ことを選ぶケースもあります。「自分はどうか」と考え、そのためにどの治療をすることが良いのか、考え、話し合うことが人生会議となります。

## 【人生会議の取り組み方】

【目的】後悔しない人生にするために



希望が変化することがあるので、何度でも繰り返し考え、話し合う

## 治療方針は変更できる 自分が決めたことが正解

人生会議の進め方は左上の表の通りです。ポイントは何度でも繰り返し考え、話し合うこと。治療に関する考え方を途中で変えても構いません。「最初は、少しでも長生きするために全ての治療を受ける」と考えていたが、やがて病状の進行や治療の副作用が出て、治療をやめて家族との時間を大切にすることに変更した、こともあります。

逆に、延命のためだけの医療は受けたくないとの当初の考えを変え、無理のない範囲で治療を再開することも可能です。

「ご自分が決めたことが正解なんです。私たちは、それをサポートしていきます」と村井主任看護師長が話します。

## 外来通院時から始める

石川県内の病院では入院してから人生会議をするよう呼び掛けることが多いのに比べ、公立松任石川中央病院は外来に通院している時から家族との話し合

いを始めます。ご自身にとって最もよいタイミングで、「その

時」の思いに寄り添って一緒に考えます。

## 自分も家族も後悔しないよう

では、人生会議に取り組んだ方は、どのように考え、治療を選んだのでしょうか。村井主任看護師長によると、最も多いのは家族と話し合い、考えられる全ての治療を受け、副作用などがあっても最後まで積極的な治療を希望するケースでした。

## 治療を受けない選択も

しかし、別のケースもあります。肝臓の病気を患った方の願いは「間もなく生まれる孫の顔を見て、孫の記憶に残るくらい

まで生きること」でした。

この方の病気は有効な治療法がありませんでしたが、治療による合併症で病状が急激に変化する恐れがありました。この場合、孫の顔を見られない可能性も考えられ、積極的な治療を受けないことを選びました。そして、願い通り、すくすく成長した孫の姿を見て、家族皆の笑顔に見守られながら旅立ちました。

別のケースでは、「最後に思い出の地にもう一度旅行したい」とのご本人の希望をかなえるため、看護師が主治医も交えて話し合い、抗がん剤治療の時期をずらすことで旅行を実現しました。

「ご自身もご家族も後悔しないように、最大限のサポートをします」と村井主任看護師長が

患者も家族も後悔しないよう人生会議の実施を呼び掛ける看護師



患者や家族が医療について話し合う大切さを伝える展示

## 研修で人材育成

ご本人やご家族と看護師との面談は外来診療時に行うため、公立松任石川中央病院では新人研修から看護師が人生会議についての研修を受けて知識を蓄えています。

「人生会議の日」が11月30日であることちなみ、毎年11月は院内で人生会議についての展示を行い、白山市内の公民館で開く出前講座や、金城大で開かれたフォーラムでも人生会議を紹介してきました。

村井主任看護師長は「患者さんが早い段階からご自分の思いを信頼できる人に伝えておけば、万が一の状況になっても、代弁者になれる。本人が望んでいたことが分ければ、つらくて悲しい選択はしなくて済むはずですよ」と語り、院内外の研修会などあらゆる機会を通じて広く人生会議が浸透するよう取り組みます。